

市 町 村：河北町

タイトル：大豆で繋ぎ、広がる河北町の農業・地域の絆

氏名(集団名)：農事組合法人 ファームひなの里

1 受賞者の概要

平成19年1月に設立した集落営農組織「谷地南部営農組合」を母体とし、農地集積による農作業の効率化と後継者確保を図るため、平成27年1月に農事組合法人「ファームひなの里」を設立した。農地中間管理機構を通じ農地集積を進め、同法人の経営面積は河北町谷地南部地域の農地のうち7割を占めている。

水田転作作物として栽培している大豆は、県内でも非常に高い収量・品質を誇り、水稲と並び同法人の主力品目となっている。また、生産した大豆を材料にした加工品の開発やPR、河北町役場と連携した紅花の振興等、地域に根付いた活動も展開しており、河北町の農業と地域文化継承に大いに貢献している。

2 特色ある活動

(1) 大豆の高収量・高品質

発酵鶏糞を連年施用して地力を高め、除草や夏季灌水を徹底して、高い収量と品質を維持しており、令和2年度全国豆類経営改善共励会では最高賞である農林水産大臣賞を受賞した。同法人の栽培技術は河北町の他の大豆生産者にも波及しており、町内の大豆の収量・品質は県内でも高い水準にある。

(2) 大豆加工の取組

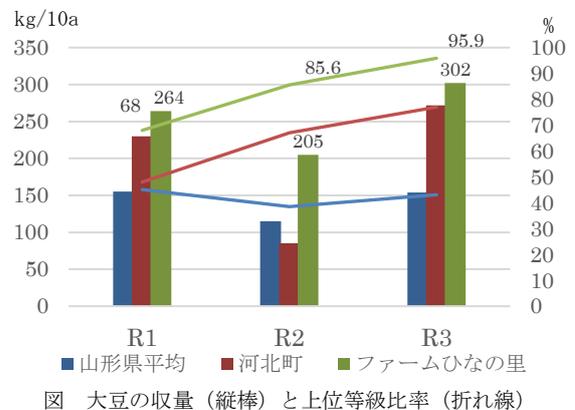
加工適性に優れる品種「スズユタカ」を使用した同法人のオリジナル納豆「雛納豆」を産直施設等で販売している他、河北町のふるさと納税の返礼品や地元の小学校の給食にも提供されており、地産地消や食育に貢献している。近年は品種「秘伝」を使用した高級納豆も開発し、東京の山形県アンテナショップで試験販売する等、加工の取組が拡大している。

(3) 紅花の振興

河北町と連携して紅花栽培に取り組んでおり、小学生の摘取り体験の受入れや障がい者雇用の農福連携を図りながら、町のシンボルである紅花の振興とPRに貢献している。

3 今後の発展方向

令和4年2月にライスセンターが完成し、今後更なる経営面積の拡大、乾燥作業受託、作業の効率化を図っていく予定である。法人の後継者についても、新規就農者の研修の受入れ等を通じて、今後次世代の人材を組合員全体で育成していく。



オリジナル納豆「雛納豆」



小学生の紅花摘み取り体験